



# 学校だより6月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和4年 5月31日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目 16 番 1

TEL 045(841)6561

## 安心して生活を送るために

～互いに譲り合うこと・認め合うことの大切さ～

副校長 武石 博行

風薫る5月、学援隊の代表の方々を学校にお招きして、子どもたちにご紹介する集会を行いました。学援隊の方からは、登下校の安全についての他に、狭い道では譲り合うことの大切さ、挨拶をして返事が返ってきたときの嬉しさなど、お互いが安心して気持ちよく過ごすためのお話を頂くことができました。本校の学援隊には、現在55名の方にご登録いただいております。学援隊の方々や保護者の「ひざりんパトロール隊」による見守り活動などにより、子どもたちは安心して登下校することができます。改めて感謝申し上げます。

さて、6月に入ると気温や湿度がぐんと上がってきます。そこで心配されるのが熱中症です。先日、文部科学省から、「身体的な距離が十分にとれている場合や、気温・湿度や暑さ指数（WBGT）が高い日には、マスクの着用は不要」との考えが改めて示されました。本校でも、登下校や体育学習、休み時間などにおいて熱中症のリスクが高い場合には、適宜マスクを外すよう声をかけてまいります。

しかし、マスクを外してよい状況でも、マスクを外せない子どももいるとの報道を耳にしたことがあります。理由としては、感染するのではないかとという不安もありますが、「みんなつけているから、外しにくい」や、「自分の顔を見られるのが恥ずかしい」など、感染とは関係のないものもあるそうです。マスク生活が2年以上も続いていることで、マスクを外すことへの抵抗感も高まってしまったのかもしれない。

この報道から、熱中症対策としてマスクを外すよう声をかけるだけでなく、安心してマスクを外せる環境づくりや、マスク着脱をめぐる一人ひとりの思いを互いに尊重し合える雰囲気づくりも同時に行っていかなければならないと感じました。

普段の学校生活でも、相手の立場になって考えることが様々な場面が必要となります。集団生活において、自分がやりたいこと、言いたいことだけを優先せずに、一步踏みとどまって譲り合うこと。自分とは違った考えも尊重して認め合うこと。これらのことをみんなが行うことで、誰もが安心して気持ちよく生活を送ることができます。このような譲り合い・認め合いの気持ちがあればこそ、熱中症対策として安心してマスクを外せることにもつながるのではないかと考えています。

6月は、明日の授業参観を始め、2年間行われなかった宿泊体験学習や水泳学習、今年度から始まるたてわり班のペア遠足などが実施されます。どれも教育的価値が高く、子どもたちが楽しみにしている行事です。感染症対策と熱中症対策をきちんと行いながら実施していきます。そして、これらの行事には、必ず互いに譲り合い、認め合う場面が出てきます。それぞれの場面でみんなが安心して気持ちよく活動するために必要なことを経験し、相手の立場を尊重する気持ちが育ってほしいと願っています。